

### 3.大沼を護る大暮山の阿部一族

●前頁の「出雲王国と大朝日岳・大沼浮島」でそのつながりがわかったが、どうやら役の小角以前に大暮山の阿部一族が大沼を守っていたのではないかと妄想は膨らんでいる。役の小角が大沼を見つけたのは、大谷川のほとりで流れてきた梵字の書かれた板碑を見つけたことをきっかけにしている。大暮山の阿部一族が大沼信仰をしていたのだろう。少し重複するが、まずは前回わかったことを振り返ってみる。



■田中神社（波須波社） ←←← 大朝日岳山頂 ←←← 大沼浮島出島

●出雲と大朝日岳・大沼は繋がっていて、特に事代主や大彦（長髓彦）の東出雲王国とのつながりが濃い祭祀線が見つかった。この大彦の子孫たちは、武力で制圧する天孫族物部に追われ東北へ逃れ日高見国を作った安倍一族である。（出雲口伝）



## ■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳の主峰）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。朝日連峰全体を朝日岳と呼ぶ。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年（7世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。

山形県西村山郡朝日町立木

備考/朝日と名のつく場所は、太陽信仰の古代出雲族が朝日を遥拝した場所とされている。三処とは大朝日岳、中岳、西朝日岳と推測される。出雲口伝では出雲王国の北限が朝日岳とされる。出雲口伝によれば、東北は鎌倉時代の北条執権まで日高見国（日の本国）として独立していたらしい。朝日岳の千年封じをして日高見国は平定された。



大朝日岳山頂の三角点と標柱

## ■大沼浮島（役の小角・弁財天）

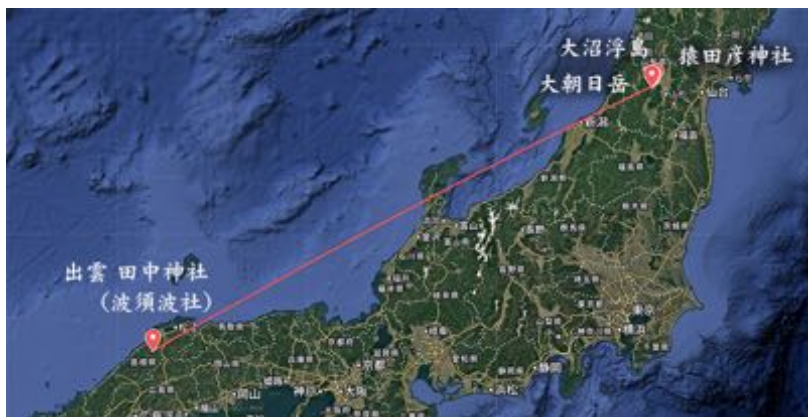
湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739年には行基が訪れ浮島66個に国の名前を付けた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。 山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の島居の立つ「出島（弁天島）」(写真)が起点となっている。



●そして、そのラインは菅原道真の子孫が移り住んだ朝日町大谷にもつながり、そこに猿田彦神社の跡地があったこともわかった。



●ところがこの猿田彦神社が、大沼出島・大暮山薬師堂・墓地の一つのお墓の三角祭祀線とつながっていた。



■大暮山薬師堂跡 →→ 1.418km →→ 大沼浮島 出島←← 1.418km ←← 大暮山墓地



■大暮山薬師堂跡 →→ 4.431km →→ 猿田彦神社跡 (推定地) ←← 4.431km ←← 大暮山墓地

●ということは、もちろん大朝日岳ともつながる。

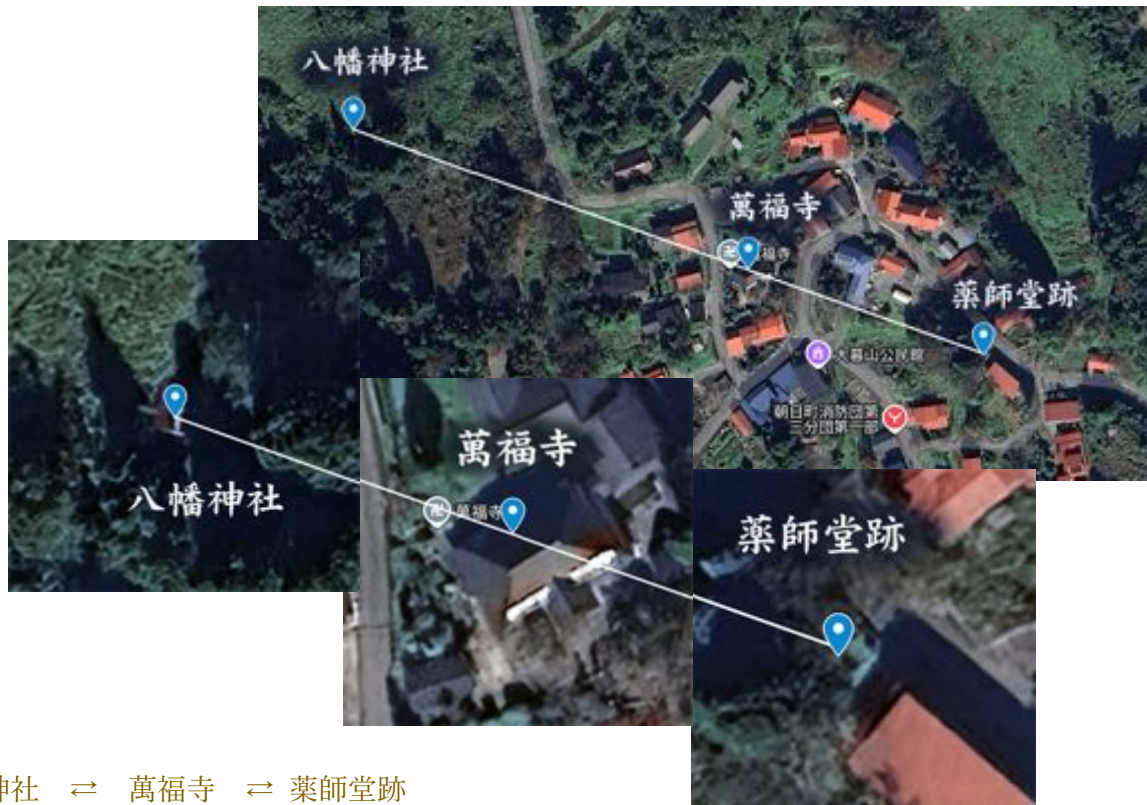


■大暮山薬師堂跡 →→ 19.725km →→ 大朝日岳山頂 ←← 19.725km ←← 大暮山墓地

●以上、詳細は前頁の「出雲王国と大朝日岳・大沼浮島」をご覧ください。

●出雲に大朝日岳・大沼の神気を送り込むためか、あるいは逃れてきた山形に出雲の神気を引くためだろう。大暮山はとても重要な働きをしていることがわかった。ただ、薬師堂と墓地がポイントとなる信憑性をもっと探さないといけない。この際、大暮山に関わる祭祀線を徹底的に調べてみることにした。

●まずは大暮山村内から。



■八幡神社 ⇔ 萬福寺 ⇔ 薬師堂跡

●朝日町が大好きな私は大暮山分校で開かれていた紙ひこうき大会に家族で何度か参加したことがあった。その時は、薬師堂はまだ建っていた記録がある。写真も探せば出てくるはず。

●村内に確認していた寺社は四つあるがそのうちの三つがきれいに繋がった。八幡神社は義家がらみだろう

か。義家は大沼にも大谷の白山神社にも戦勝祈願をしている。そして、同じ朝日岳信仰の長井の川口寺を、貞任を匿ったとして取り潰している。萬福寺がももとの薬師堂の祭祀役のように思える。その後ろに八幡神社を据え置かれた。朝日岳信仰の力を抑える役割だろうか。

■大暮山 薬師堂跡 詳細不明 10年ほど前に取り壊された

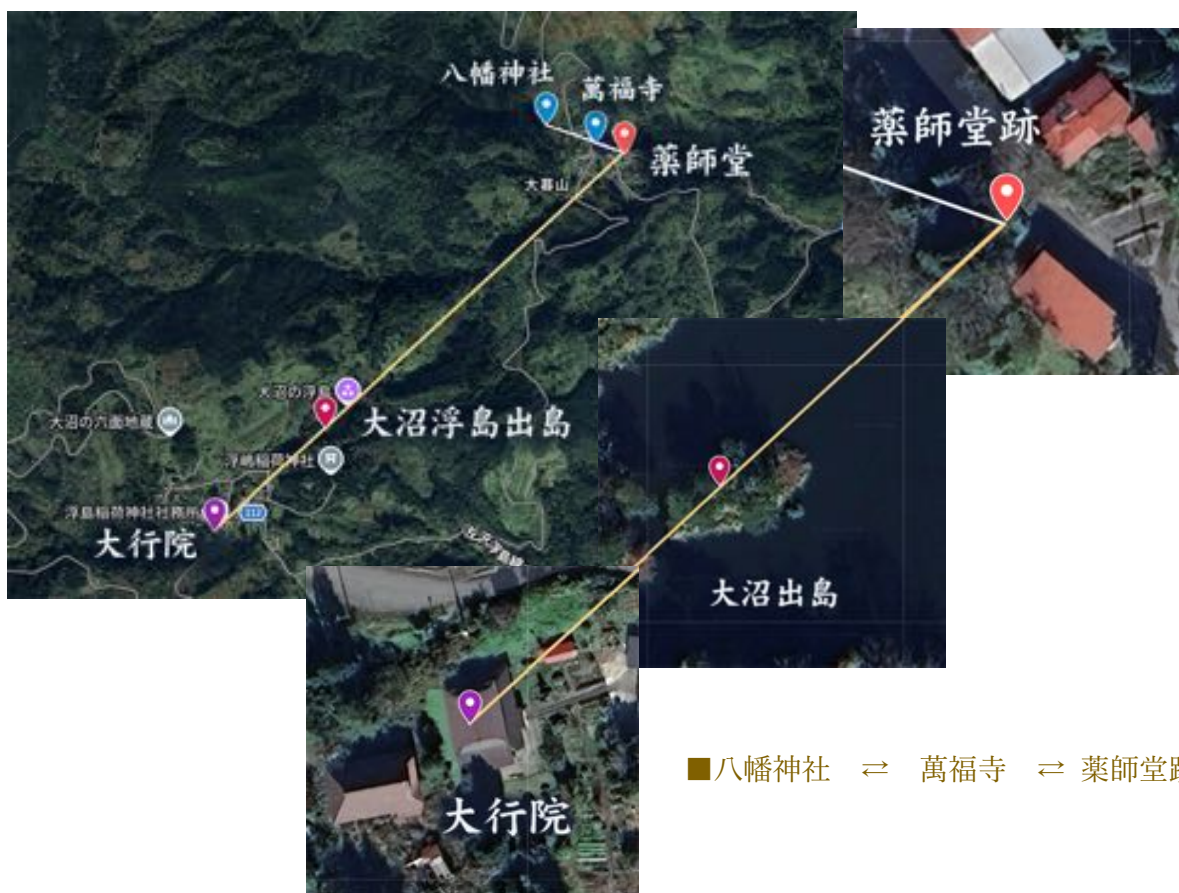
### ■大暮山 八幡神社

大暮山地区を一望できる小高い丘に八幡神社が建っています。本殿屋根葺き替えのおり、発見された棟札には「文政□□年、棟梁□□」と書かれており、少なくとも文政年間には建立されていたことが分かります。ご神体は桧の一本造りで、素朴にして雄大な作品です。高さ40センチメートル。臥獣に乗った応神天皇の立像で江戸中期の作と推定されています。※朝日町エコミュージアムサイトより抜粋

### ■萬福寺

元禄4~5年(1691~2)頃の大火により、十数戸の村とともにことごとく焼失しました。この時萬福寺のご本尊地藏菩薩だけはぜひ助けなければならぬと、村人は猛火をくぐりぬけなんとか運び出しました。しかし、ご本尊はひどい火傷にあい、それ以来お厨子の奥深く安置され秘仏となっています。境内には、経文を納めた宝篋印塔やあきごぜの墓があります。朝日町大暮山46-1 ※朝日町エコミュージアムサイトより抜粋

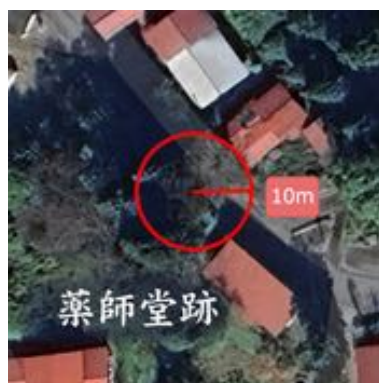
●そして薬師堂は大切な役割を持っていた。



■八幡神社 ⇔ 萬福寺 ⇔ 薬師堂跡

●薬師堂は大沼出島の鬼門の護りだった。そして別当の大行院は表鬼門を護っている。

●次に大谷地区とのつながりを探してみた。



■ 白山神社本殿跡 →→ 3.769km →→ 大暮山薬師堂跡 ←← 3.769km ←← 二渡観音

### ■ 白山神社跡

祭神 菊理姫命 伊邪那岐命 伊邪那美命 与茂津言解之男命

境内社 稲荷社 末社 日月社（船渡）

大谷の白山神社は承和七年（八四〇）、加賀の国（石川県）の白山大権現より勧請し、天喜年中（一〇五三～一〇五七）に源頼義が武運長久を祈願したと伝わる。昔からいくさの神として領主の崇敬厚く、特に寒河江の大江氏や山形城主の最上氏より十九石四斗余の社領を寄進され、さらに慶安二年（一六四九）徳川三代將軍家光より、石高同じく、朱印状（徳川將軍が朱印を押して発行した公文書）をもって安堵されたのである。

宝永四年（一七〇七）近郷九か村（大谷、大暮山、川通、栗木沢、船渡、左中、粧坂、中沢、富沢）の総鎮守として、各村々から寄進を受け、白山神社を再建した記録が残っている。

江戸時代、白山神社の西側朱印地に寺を建て白山寺と称し、真言宗寒河江惣持寺の末寺となったが、天保時代（一八三〇～一八四三）に廃寺となり、跡地は畑になったといわれている。この場所に明治十二年（一八七九）大谷小学校が初めて建設されたのである。

明治七年官令により村内の御朱印社であった天満宮、八幡神社、愛宕神社、北野天神社、若宮八幡神社、二渡宮、日光神社を白山神社に合祀。

もとの白山神社は、旧大谷小学校の東側にあり、境内は広く、モミの木や杉、かえで、桜などの大木が茂り、千百年余の間、氏神として親しまれてきたのであった。しかし、終戦後、昭和二十一年（一九四六）五月、進駐軍（GHQ）より、大谷小学校と隣接する白山神社を教育施設より切り離すよう命令され、止むなく社殿を解体、恩賜郷倉（非常時の米倉）に一時保管。昭和二十五年（一九五〇）八月三十日、現在地に茅葺き屋根を銅板葺に変え昔のままの立派な社殿を再建したのである。当日深夜、松明の先導で別当南蔵院（小野家）より新殿に遷宮したと伝えられている。跡地には、新制の大谷中学校が建設され、今も残るヒバの木は、白山神社本殿跡に植えられた記念樹である。 ※朝日町エコミュージアムサイトより抜粋



## ■二渡観音

二渡観音は応永2年(1395)に建てられた町内でも古い観音堂で、堂内の縁起書によれば「白田内記家の先祖が月山参りの途中、白髪老人に逢い『私は二渡りの神なり、郷里に帰り二渡の社を建て信心すれば必ずや村を守るであろう』というお告げがあったので社を建て自ら別当となった。」とあります。徳川将軍より二石六斗のご朱印状を受け、格式ある神仏として崇拜されてきました。(聖観世音)

※朝日町エコミュージアムサイトより抜粋 朝日町大谷 1858

●二渡観音のラインには高木天満宮も乗っている。

■薬師堂跡 ⇔ 高木天満宮 ⇔ 二渡観音

## ■高木天満宮 詳細不明

大谷四天神の一つ。

『大谷郷』には少なくとも300年前にはあったと記されている。



●白山神社は古いが、二渡観音と高木天満宮はだいが時代が下ってからのので、大谷に薬師堂の神気を引き込むための祭祀線かも。

●次は大朝日岳。



■光学院 →→ 19.725km →→ 大朝日岳山頂三角点 ←← 19.725km ←← 薬師堂跡



## ■光学院

光学院は今から約460年前に寒河江市の澄江寺の第三代住職が開いた寺院です。その澄江寺は、1471年に山口県の大寧寺の僧が開山した寺であり、当時の大寧寺の住職は大江氏第10代当主大江元高公の弟にあたります。大江氏最後の当主である第18代高基公が自害した際に使ったとされる短刀が、この寺に残されています。

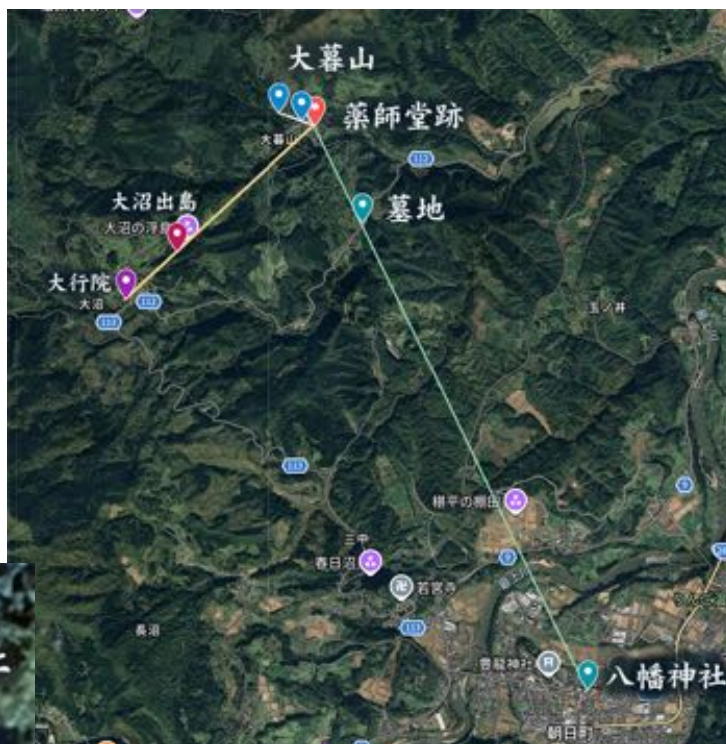
どのような経緯で、この寺に伝わったのかは分かりませんが、一説には高基公が自害した後その家臣が高基公の首と一緒にこの刀を運んだのではないかともいわれているようです。他に弓の名手といわれた松田彦次郎の弓。高基公とその家臣を描いた掛け軸もあります。※広報大江 平成30年8月号より抜粋



光学院は曹洞宗の寺院です。光学院は中世周囲を支配した寒河江城主大江高基の菩提所です。周囲は大江氏関係の史跡となっていて、案内板によると「貫見方面には源平時代の伝承や鎌倉時代の板碑がある、また、天正12年(1584)大江高基が最上義光との戦いに敗れ、大江氏一族が家臣と共に滅亡した所である。高基自刃の地御館山には高基及び三家臣の墓、そのふもと要害には十二家臣の墓、明王堂には高基の位牌がまつられ、光学院には高基や家臣の遺品が蔵されている。その他、滅亡にまつわる物語が各所に伝えられ、西村山地区でも重要な歴史の古里である。大江町教育委員会」とあります。※出羽旅サイトより抜粋

●光学院が大朝日岳や大沼とつながるための祭祀線。大江氏の先祖も菅原家と同じ野見宿禰だから祭祀族なのだと思います。源頼朝の右腕だった大江広元の領地が山形の村山置賜地方だったのは、朝日岳信仰があったからだろう。

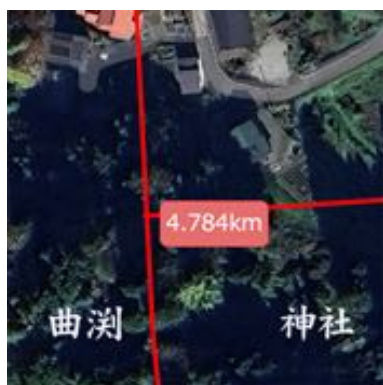
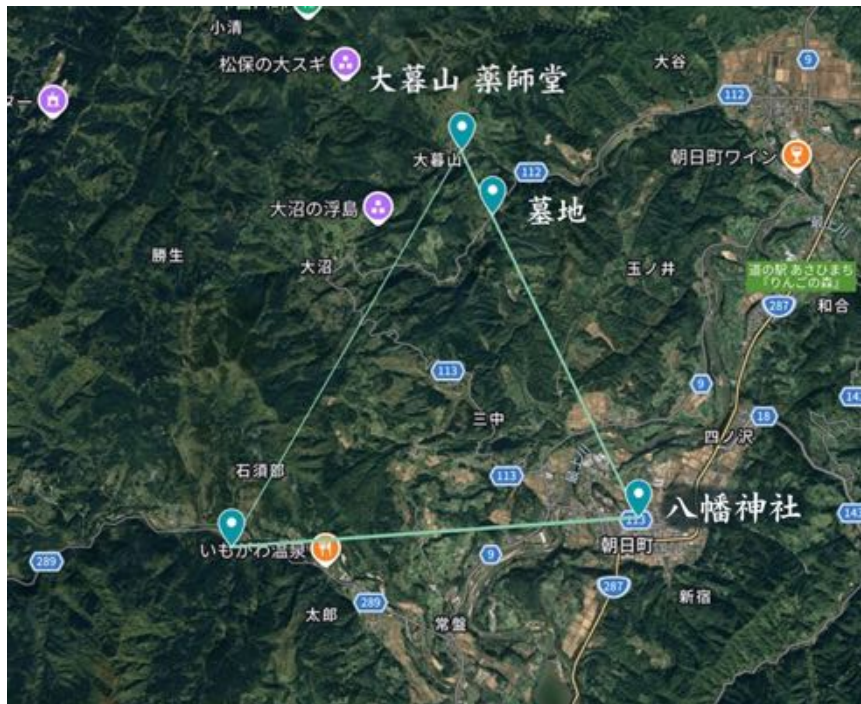
●ためしに薬師堂跡と墓地を繋いで伸ばしてみたら、朝日町宮宿の知らない小さな神社とつながった。



■大暮山 薬師堂跡 ⇒ 大暮山墓地 ⇒ 八幡神社

●確認しに行ってみた。近所の方に伺うと、ここは中宿様の八幡神社とのこと。中宿様とは、いわゆる「旦那様」のような由緒あるお家柄とのこと。なんと亡くなったお婆ちゃんは大沼大行院が実家とのこと。祭祀線のみならず血のつながりもあったとは驚いた。

●もしかしたらと思い、この二つとつながる寺社があるかもと探してみたらあった。なんの神社かは表示されておらず朝日町エコミュージアムのサイトにも載ってはいなかったの、またの機会に確かめてこようと思っている。

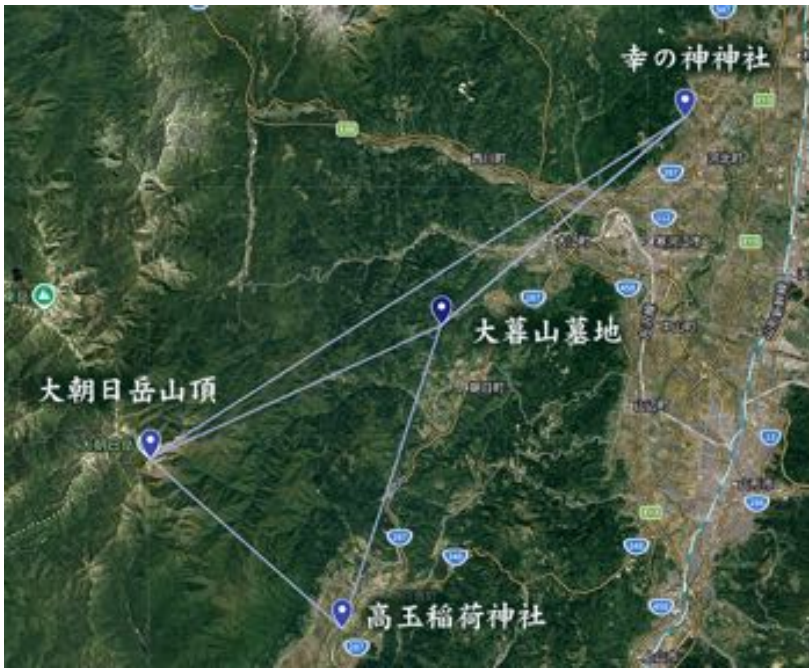


■曲淵 神社 →→ 4.784 km →→中宿様 八幡神社←← 4.784 km ←← 大暮山薬師堂跡

●またも八幡神社。大暮山薬師堂は二つの八幡神社に挟まれていた。やはり義家だろうか…

●薬師堂自らつないだラインは見当たらなかったの、やはりそうとう古い歴史を持つのだと思う。

●次は墓地の祭祀線を探してみる。まずは薬師堂もつながっていた大朝日岳山頂三角点から。



■大朝日岳山頂三角点 →→ 19.726km →→ 大暮山墓地 ←← 19.726km ←← 幸の神神社  
 ←← 19.726km ←← 高玉稲荷神社

### ■大暮山墓地

●実際に見てきた。通常お墓は集落の近くにあると思うのだが、ここは1kmも離れている。ここに祖先を思う念を集中させて聖地になっているのだと思われる。全体が古墳のような丘になっていて南に行くほど道は下るが、丘は高くなっている。一番高いピークはいつもポイントにしているお墓の後ろの二間四方の空き地（写真）になっている。ここに何かお堂があったのではないだろうか。もしくはここに古代からのリーダー的存在の方の墓があったのかもしれない。



### ■幸之神神社

祭神は猿田彦神と天細女命の二神で開基ははっきりしないが、最上川西岸堀口に造営されたのが始まり。縁結びの神として多くの人々から信仰されてきた。「中条家」や「白鳥家」の守護神であり代々尊崇されてきた。元禄年中の大洪水により、社殿が押し流された時、大町と前小路の両村の鎮守として再建され、その後慶応2年（1866）の谷地大火のとき類焼し、ご神体だけかろうじて救出され、菊田家屋敷に移転されていた。昭和46年に都市計画事業の実施により、現在地に移転されたものである。※説明版より抜粋

## ■高玉 五社稲荷神社

御祭神/倉稲魂命、大己貴命、そのほか数柱 西置賜郡白鷹町高玉3831

●残念。幸の神神社は昭和46年にここに移転されていたから当てはまらない。幸の神は出雲族の最高神であり、通常は「塞の神」なのに昔のまま「幸の神」と呼ばれてもいて大変ときめいたのでとても残念に思った。ただ、白鳥家は元々出雲族の安倍家と聞いたので、その裏付けとなる神社といえる。それにしても、多くの人に縁結びの神として信仰されてきたのに現代ではこんな寂しいところに祀られてしまっている。

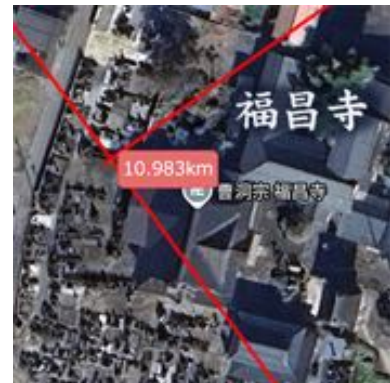
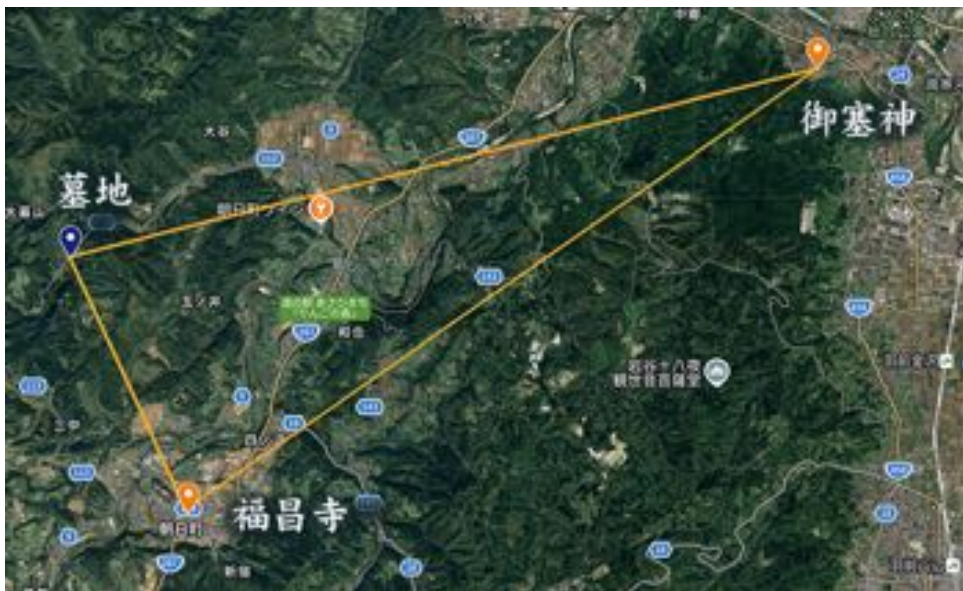
もしかしたら…

現代の安倍系陰陽師が大朝日岳や大沼とつながる適切なこの場所にあえて祀ったのだろうか。新しいとはいえどもこの祭祀線は生きている。近くに行った際にはお詣りに行こうと思う。

●五社稲荷神社はありだと思う。白鷹・長井市・飯豊は朝日岳信仰に関わる寺社がたくさんある。稲荷神社も宇賀神と考えれば蛇神だから出雲族の神になる。

●塞の神つながりで、有名な平塩の御塞神とつなげてみた。

するとつながった!



■大暮山墓地 →→ 10.983km →→ 平塩 御塞神 ←← 10.983km ←← 福昌寺

●見つかったが、福昌寺の歴史は戦国時代以降と新しい。福昌寺をここに置くための祭祀線といえる。

## ■平塩御塞神

今からおよそ 1300 年前の養老 5 年に開かれたという平塩熊野神社があります。平塩の御塞神（おさいじん）さまは、この熊野神社の参道の東端、鳥居崎にあります。昔は村はずれだったのでしょう。この神様はもともと熊野神社の一山衆である松本坊の受け持ちでした。

「塞の神（さいのかみ）」とは、村はずれの道ばたなどにあって旅行の安全を守り、外から入ってくる疫病や悪霊を防ぐ神様です。ご神体は男性や女性の象徴と似た形の石などで、縁結びや子宝を授けてくれる神様にもなっています。信州（長野県）の道祖神なども同じ種類の神様です。

旧暦の小正月（1月15日）、この平塩の御塞神様祭りが行われます。地区の人たちは、自分の家で作った甘酒を塞の神にかけて豊作を祈りました。また、早朝に一山の男衆が経塚山から松の木を伐ってきて、男根に似せたご神体を作ります。大きいものは 40 センチメートルもの長さがあります。夕刻、身体を浄め白装束姿で熊野神社の階段を上って行きます。神社で祈祷をして松の木で作ったご神体に魂を入れるのです。その後太鼓の合図で一山の人たちは、手にご神体を持ち「ホーイ、ホイ」と掛け声をかけながら参道の先の御塞神様まで下ります。そして塞の神の神前にご神体をならべ、宮司が祝詞をあげます。そして、いよいよご神体がまかれるのです。夜も更けて極寒のなか、数百人も集まった群衆に向かって、神主が「まくぞー」と掛け声をかけてご神体を次々放り投げます。人々は福を求め、奪い合ってご神体を拾おうとします。一度手に入れた人にさらに何人も襲いかかり、激しい争奪戦となるのです。これを拾うと子孫繁栄や悪霊退散の御利益があるといわれています。寒河江市平塩 3 6 6

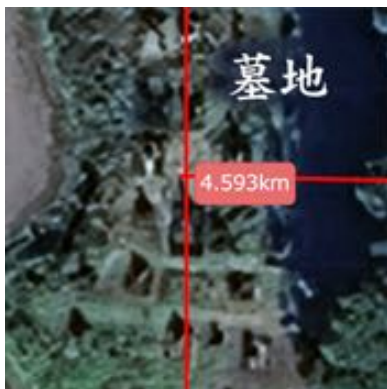


## ■熊野山 福昌寺

福昌寺は、永禄元年頃（1558年）、館山鳥屋ヶ森城主岸美作守義満の菩提寺として鳥屋ヶ森根小屋に創建されました。しかし、戦国期の五百川合戦により最上義光に滅ばされ焼失します。後に三本木に寺を再建し、熊野権現社地が開拓された天正 17 年（1589）に現在地に移りました。境内には岸美作守義満の墓碑があります。西村山郡朝日町宮宿 1 1 6 8

●しかし、この祭祀線が見つかったおかげで、古い祭祀線が見つかった。地図を見つめていて一つの神社が真ん中に位置しているように思えたのである。





■大暮山墓地 →→ 10.983km →→ 日月神社 ←← 10.983km ←← 熊野権現社

●円周ラインは福昌寺本堂ではなく隣接する熊野権現社にぶつかった。おそらく平安時代の祭祀線ではないだろうか。それにしても、日月神社創建の出来事が衝撃的だ。ピンポイントな位置に神社を配置するために光り輝く UFO が 2 機飛来して「ここに作れ」と指示したように感じる。

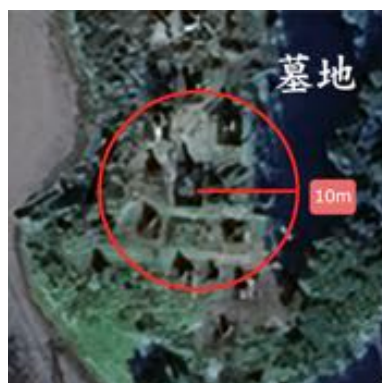
### ■日月神社（白山神社末社）

今から千年ほどさかのぼる承和七年（840）、田原家屋敷内での出来事である。天にわかに鳴動し、あたかも雷電（いなづま）のような響きをなし、四方八方に光を放ち、燦然と輝いた太陽と月のような二つの火の玉が飛来してきた。みんながいうには、白山姫とその姫を乗せてきた老翁の化身だとか。そんなことがあってから、田原家ではこの聖地に日月神社を建て手厚く祀ってきた。日月神社と深い因縁がある大谷の白山神社も承和七年（840）、加賀の国白山権現から分神したと伝えられていて、その末社として、日月神社を創建したといわれている。一乗院田原家は代々日月神社の別当職をつとめ。系図上では現当主で二十二代にあたる。江戸時代には大谷の南蔵院と共に白山神社の社人として、十九石余の御朱印地を持つ格式高い家柄であった。現在の社殿は元文三年（1738）に再建、祭日は旧暦三月十日となっている。（『大谷郷』より抜粋）

●2年前に地元の人に聞いて行ってみたが残念ながら社殿は崩れ落ちて見る影もなかった。

## ■熊野権現社

- 詳細不明だが、古くからあった熊野権現社の隣に後から福昌寺が建てられている。
- 最後に大谷地区の祭祀線を探してみた。



■大谷 北の天満宮跡 →→ 3.414km →→ 大暮山墓地 ←← 3.414km ←← 大谷 鍛冶地蔵尊

## ■北の天満宮（天神社）

詳細不明だが、江戸時代には幕府から安堵された御朱印社だったので格式高い神社だったといえる。明治の神仏分離令により白山神社に合祀されたが小さな社殿は10年ほど前まで現存していた。

## ■大谷鍛冶地蔵尊

### ●大谷の六地藏

あらゆる悩みや苦しみを身代わりし、どんな願いも叶えてくれるといわれ、昔から庶民の心のよりどころとして親しまれてきました。大谷にも主な街道の入口に六つの地藏堂があったといわれ、村人の幸せや安全を守ってきました。愛宕地藏尊・延命地藏尊・鍛冶地藏尊・永林寺延命地藏尊・安産地藏尊・えんこ淵地藏尊（増水で流失）があります。※『大谷郷』より抜粋



●地理院地図はありがたい。Google マップと違って古いデータが残っているので北の天満宮もいまだに表されたまま。ただ、記載された建物の輪郭幅は10mと大きい。実際の社殿は半間（90cm）ほどだったから、きっとこの円周ライン上がピンポイントなのだろう。この祭祀線もかなり古いと思われる。鍛冶地藏の傍には、幕末

まで京都土御門家に通っていた陰陽師白田基有の記念碑も建てられてある。

●まとめ

出雲とつながる朝日岳・大沼の祭祀線に大谷の猿田彦神社（推定地）とともに大暮山の薬師堂・そして墓地が大きく関わったことに大きな信憑性を得られた。元々、大朝日岳までが出雲王国の北の支配域だったとされる。大暮山の阿部家は、やはり大沼を守るために残された出雲一族なのだと思う。

●朝日町教育委員会には、ぜひ猿田彦神社跡（推定地）と大暮山墓地の空き地の発掘をお願いしたい。

2026年4月13日 竜天太陽記

